

「今さら聞けない」「ちょっと気になる」…
食についての基本のキを、毎月1回紹介します。

食べものナビゲーター

6月

vol.144 2023年5月22日発行

酪農を取り巻く問題



「食べものナビゲーター」はパルシステム東京のホームページでも公開
牛乳を生産する酪農家が困難な状況にあることをご存じですか？
なぜ、酪農家の負担が増えているのか、いっしょに考えてみましょう。



日本の酪農家を悩ます問題

飼料価格の高騰

家畜に与えられる飼料の約7割は輸入に頼っています。2000年代から飼料価格は高騰し、コロナ禍やウクライナ侵攻などの影響によりさらに上昇。現在の価格は、16年前と比べて約2倍となっています。

配合飼料工場渡価格の推移



グラフは(公社)配合飼料供給安定機構「飼料月報」を元にパルシステム東京で作成
※配合飼料価格は、全畜種の加重平均価格

生産コストの値上がり

光熱費等の値上がりにより、牛乳の生産費は2020年から22年10月までに33% (1kgあたり28円*) も上昇しています。酪農家が負担するコストが、今までにないほど増大しています。

※ 新聞「農民」2022年12月19日号より

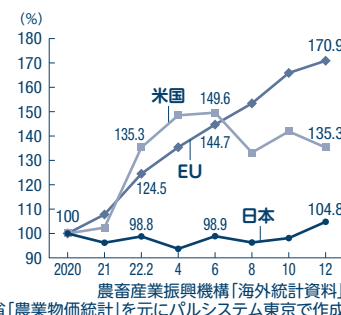
生乳の価格はほぼ横ばい

コストが増える一方で、生乳の価格(=乳価)はほぼ横ばいです。2022年11月に3年半ぶりに飲用乳価が10円/1kg上がりましたが、上昇したコストを回収する間もなく、さらに追加でコストが上昇して厳しい状況に。

今年8月に再度、乳価が上がる見込みですが、コスト上昇分を補う水準には程遠い見通しです。

一方、EUや米国では大幅に乳価が上がっています。

EUの乳価は1.7倍、アメリカは1.4倍、日本だけ低迷

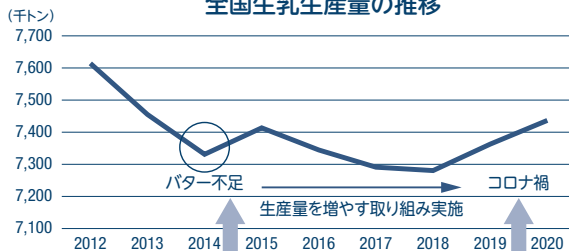


※ 米国は国が乳価とコスト高騰の差の一部を補填するしくみ。EUは上昇したコスト分を乳価に転嫁するしくみにより乳価が上がっています。

乳製品の需給バランスの崩れ

日本では、2014年の深刻なバター不足により、生乳の生産量を増やす政策を進めました。牛が牛乳を出せるようになるには約3年かかるため、生産量が増加し始めたころ、コロナ禍によって牛乳の需要が減少。需給バランスが崩れ、生乳余りに。現在は生乳の減産(=生産抑制)をせざるを得ない状況です。

全国生乳生産量の推移



生乳が余った場合、脱脂粉乳やバターなどに加工して保存しますが、今はそれらも在庫過多に



深刻なバター不足により、生乳の生産量増加を促進

コロナ禍で、牛乳や乳製品の需要が大きく減少

減産のために、乳牛を処分することや補助金を出す政策も

酪農家の声から



飼料・資材費の借入れが増え、廃業する酪農家も。離農により人口が減り始めている町もあります。



牛乳は生産を減らしたくても、蛇口をしめて止まるようなものじゃありません。生乳の廃棄を止めるため、一杯でも多く飲んでほしいです。

2/14開催「院内集会 酪農・畜産の危機は国民の“食”の危機!農を守ることは命を守ること—日本から畜産の灯を消すな!」より

酪農家の現状を受け、農林水産省も、牛乳、ヨーグルト、アイスクリームなど乳製品の利用が酪農家の支援につながると消費者に呼びかけています。

パルシステムは生産者の支援を呼びかけます!

国に酪農・畜産の支援を要望

パルシステムでは、酪農・畜産生産者の声をまとめ、支援強化を求める要望書を農林水産大臣に提出しました。

パルシステム連合会の大信理事長(左)から角田農林水産政務官(右)へ要望書を手渡す



要望書の概要

1. 配合飼料価格高騰に対する補助制度の拡充を再検討してください
2. 国産飼料の生産拡大に資する制度を強化してください
3. 経年劣化や家畜疾病対策強化にともなう施設更新などへの支援を強化してください



パルシステム連合会の大信理事長は、「要望は、生産者と消費者の声を代弁するものです。特に小規模な生産者を取り巻く環境は厳しさを増しており、持続可能な経営へ向けた支援は不可欠です」と要望しました。

要望書全文はこちらから



酪農・畜産の窮状を訴える院内集会に参加

2023年2月、酪農・畜産生産者の窮状を訴え、一刻も早い対策を国に求める院内集会が参議院議員会館で行われました。

参加したパルシステム東京の松野理事長は「酪農家の深刻な現状をうかがい、さらなる運動を生産者とともに進めていきたい」と訴えました。



Think from Kitchen

キッチンから考える?

Vol. 84

発行/2023年5月22日

今月のテーマ

牛乳

6月は牛乳月間

学校給食を卒業すると、牛乳を飲まなくなる大人が多いのはなぜでしょう。子どもだけでなく、大人にとっても大切なさまざまな栄養素を含む牛乳。この機会にもう一度、牛乳を飲む習慣を見直してみませんか。

すべての世代の健康づくりに

牛乳は栄養バランスの取れた、理想的な飲み物です。良質なたんぱく質やビタミン類、カルシウムなどたくさんの栄養素を含みます。成長期の子どもだけでなく、すべての世代の健康づくりに活かしたいものです。

こんせん72牛乳
コップ1杯(200ml)あたりの
栄養成分/142kcal

たんぱく質 7.0g

身体のあらゆる組織をつくる。牛乳のたんぱく質は体内で作れない必須アミノ酸をバランスよく含む

炭水化物 9.7g

牛乳に含まれる炭水化物は乳糖。カルシウムや鉄の吸収を助け、腸内の善玉菌のエサになる

脂質 8.3g

エネルギー源。細胞膜やホルモンの構成要素

カルシウム 227mg

骨や歯を作る牛乳。コップ1杯で1日の摂取目標(成人女性)の約1/3分

このほか、ビタミンA、B群、カリウムなどが含まれます。

牛乳を飲むと太る?

栄養が豊富なのでエネルギー量も高いと思われがちですが、「こんせん72牛乳」コップ1杯(200ml)あたりの熱量は142kcal。成人女性の1日摂取基準のわずか7%(2020年版)です。さらにたんぱく質やカルシウム、ビタミン類などの栄養素も含んでいます。栄養の偏りが心配なときにも、おすすめしたい食品です。

牛乳のチカラ

牛乳プラスでおいしく減塩

ヘルシーだけれど塩分量が気になる和食。味つけに牛乳を加えると、牛乳のコクやうまみで、おいしく塩分を減らすことができます。



運動後のリカバリーに

牛乳のたんぱく質は、運動で傷んだ筋肉や、疲労の回復に必要なアミノ酸を多く含みます。スピーディーな栄養補給が必要な運動後に、サッと飲める牛乳は最適。また、ややきつい運動後に乳製品をとると、熱中症予防になるとの報告も。



骨粗しょう症対策に

不足しがちなカルシウムを吸収しやすいかたちで含む牛乳は、骨粗しょう症予防の必須アイテム。骨量は20代をピークに徐々に減り始めるので、すべての世代で補給する必要があります。

カルシウムの骨への沈着は夜に多くなるので、夕方に飲む方が効果的ともいわれます。



牛乳をおいしく食べる

だいでこログから

320件の牛乳レシピ

飲むだけでなく、料理やデザートなどさまざまな利用法がいっぱい。パルシステムのレシピサイト「だいでこログ」をぜひのぞいてみてください。

ホタテとチンゲン菜のミルク煮



とろみのあるミルク風味が素材の味を引き立てる



鶏とそら豆のクリームパスタ

そら豆の香りと風味をクリームソースがまろやかに包む



桃のレアチーズケーキ風

ヨーグルトと牛乳で桃をレアチーズ風にアレンジ



牛乳パックのアイスクーキ

牛乳パックに牛乳と冷凍果物を入れてフリップひんやりスイーツに



よくある質問コーナー

消費期限が短いのはなぜ?

パルシステムの牛乳の消費期限はお届け日を含め4日間(「酪農家の牛乳・低脂肪乳」は5日間)。市販の牛乳に比べると短い設定ですが、

その理由は「生乳の風味を活かす」ことを大切にしているから です

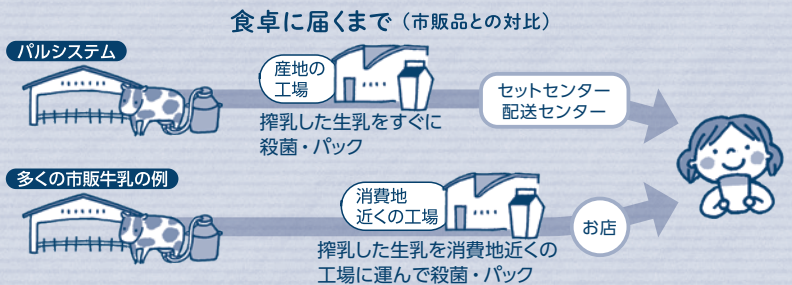
●殺菌方法が違う

市販牛乳の9割以上は120℃以上の超高温殺菌ですが、パルシステムの牛乳は生乳の風味を活かすため低い温度で殺菌しています。細菌数の少ない良質の生乳を使用していますが、消費期限はどうしても短くなります。

商品名	殺菌温度	殺菌時間
「こんせん72牛乳」	72℃	15秒
「酪農家の牛乳」	75℃	15秒
「いわて奥中山高原の低温殺菌牛乳」	65℃	30分
ほとんどの市販牛乳	120℃~150℃	1~3秒

●産地でしばりたてをパック

パックした日が製造日になります。パルシステムは生乳の風味を活かすため、搾乳後すぐに産地でパックしてから首都圏に運びます



食ナビ PLUS

開催報告 おうちde検査体験! GMナタネ調査隊を実施(4月15日)

遺伝子組み換え(以下GM)ナタネ(菜の花)が、製油工場などに運ばれる間にこぼれ落ちて自生することがあります。身近な場所に生えているナタネがGMナタネかどうかを調査する企画をオンライン

で開催。農民連食品分析センター所長の八田純人氏が、遺伝子組み換え食品について解説。その後、ナタネの検査を体験しました。参加者からは「子どもと一緒に調査できて楽しかった」「遺伝子組み換え食品に関心がもてた」などの感想が寄せられました。参加者の検査結果はすべて陰性(遺伝子組み換えでない)でした。

ふるさと納税返礼品「高成長トラフグ」の行方

ゲノム編集により食欲を調整する遺伝子を切断し、通常の2倍ほどに成長させたトラフグが、京都府宮津市のふるさと納税の返礼品として提供されています。このトラフグに対し、2023年2月、「安全性が明確になるまで、ふるさと納税の返礼品として取り扱わない」ことを求める請願が、市民団体から宮津市議会に提出されました。

議会では、市民団体とトラフグの販売会社、双方から参考人質疑を受けるなどの協議が行われました。その結果、議員からは「生物多様性への安全性が不明」「市民への周知ができていない」などの声が挙がり、23年3月27日に継続審議となりました。返礼品としての提供は続いています。